

令和2年第10回函館市教育委員会定例会 会議録

- 1 日 時 令和2年(2020年)10月16日(金) 午前10時
- 2 場 所 教育委員室
- 3 出席者 辻教育長, 藤井委員, 小葉松委員, 須田委員, 青田委員
- 4 欠席者
- 5 事務局 堀田生涯学習部長, 松田学校教育部長, 吉本生涯学習部次長,
池田生涯学習部次長, 瀬戸教育政策推進室長, 東出管理課長,
佐藤学校再編・地域連携課長, 神生涯学習文化課長, 長谷山文化財課長
- 6 傍聴者 0人
- 7 付議事項

日程第1 議案第1号 函館市立磨光小学校・函館市立臼尻小学校・函館市立大船小学校
統合校および函館市立尾札部中学校・函館市立臼尻中学校統合校
の校名に関し, 議決を求めることについて

日程第2 議案第2号 民法の一部を改正する法律の施行等に伴う函館市成人祭の対応の
決定に関し, 議決を求めることについて

日程第3 議案第3号 函館市社会教育委員の解嘱に関し, 議決を求めることについて

議案第4号 函館市社会教育委員の委嘱に関し, 議決を求めることについて

日程第4 報告事項 縄文遺跡群の世界文化遺産登録による効果促進施策のあり方の策
定について

■辻教育長

- 開会宣言 午前10時
- 議事録署名人に, 藤井委員, 小葉松委員を選任。
- それでは, 日程第1, 議案第1号「函館市立磨光小学校・函館市立臼尻小学校・函館市立大船小学校統合校および函館市立尾札部中学校・函館市立臼尻中学校統合校の校名に関し, 議決を求めることについて」を諮る。

■ 学校教育部長

- 議案第1号「函館市立磨光小学校・函館市立臼尻小学校・函館市立大船小学校統合校および函館市立尾札部中学校・函館市立臼尻中学校統合校の校名に関し、議決を求めることについて」説明する。本議案については、統合準備委員会から南茅部地区小・中学校の校名決定について要望書の提出があったところであり、小・中各統合校の校名を決定しようとするものである。統合準備委員会は5校のPTA、学校運営協議会委員・町会会長などの地域の方々、学校職員の計41名により、小中合同で組織されたものであり、統合校の開校に向け様々な事項について検討を進めているところである。なお、統合校の開校時期は、小学校は令和4年4月1日、中学校は令和5年4月1日を予定している。
- 議案の別紙資料をご覧いただきたい。2ページの「参考 選考における考え方」にあるように、検討にあたっては、地域性や歴史性を重視する教育委員会の校名選定方針に沿って進められた。1ページをご覧いただきたい。小学校については、「ひろめ」、「磨光」、「かやべ」がひらがな表記の「南かやべ」、漢字表記の「南茅部」の4つの校名候補が選考されたところである。
- まず、「ひろめ」については、献上昆布としても有名であるほか、柔らかな語感が子どもたちのかわいらしさに通じ、世界に広く活躍するような人材を育成することを願うものであるという選定理由である。次に、「磨光」については、昭憲皇后の歌に由来しており、校訓「自ら磨きつづける磨光の子」は、新しい時代の子ども像としてもイメージしやすく、長く地域にも親しまれてきた校名であり、南茅部地区がこれまで歩んできた統廃合に対する合理的な判断や思いも十分反映されるものと思われるという選定理由である。次に、「かやべ」がひらがな表記の「南かやべ」について、地域を表す名称として「南茅部」の文言は長く使用されており、地域住民に親しまれ、愛着があるほか、知名度とともに場所もイメージしやすいという選定理由であり、ひらがな表記にして柔らかさ・可愛らしさを加味したというものである。最後に、漢字表記の「南茅部」については、先ほどの説明に加えて、中学校が「南茅部中学校」となった場合、小・中・高の校名が「南茅部」となり、統一感や一体感も生まれるという選定理由である。
- 続いて、中学校については、「川汲」、「磨光」、「かやべ」がひらがな表記の「南かやべ」、漢字表記の「南茅部」の4つの校名候補が選考されたところである。
- まず、「川汲」については、鹿部方面・椴法華方面・旧函館市方面の合流地点であり昔からの要所であるほか、新設される中学校は、南茅部地区のほぼ中心にあり、歴史や行政、経済の中心地にあることが選定理由である。次に、「磨光」については、先ほどの小学校での説明に加えて、小中一貫して、9年間を通して同じ校訓のもと、新しい時代を切

り拓く創造性を備えた人づくりを目指したいという願いが込められているという選定理由である。次に、“かやべ”がひらがな表記の「南かやべ」については、先ほどの小学校での説明に加えて、これからの時代をたくましく生き抜き、豊かな人生を歩むためには、柔軟な発想や対応力が必要であり、そのような人格を育成する思いも込めたという選定理由である。最後に、漢字表記の「南茅部」については、先ほどの小学校での説明に加えて、小学校が「南茅部小学校」となった場合、小・中・高の校名が「南茅部」となり、統一感や一体感も生まれるという選定理由である。以上が、校名候補の要望内容となっている。

- なお、統合準備委員会で選考された各候補については、それぞれに思いや願いが込められており、優先順位をつけずに要望されているが、今回の校名決定に係る議案提出に先立ち、南茅部地区の各校PTA・町会の代表の皆様などに広くご意見を伺ったところである。本日は、これらを踏まえ、統合校の校名を決定していただきたいが、地域性や歴史性を重視する観点から、統合校の所在地の町名、地域を象徴する名称、既存校名または過去に地域に設置されていた学校の名称という教育委員会の校名選定方針に沿って決定していただきたい。

■辻教育長

- 本議案については、統合準備委員会から要望書が提出されているので、要望内容を踏まえ、校名を決定していただきたいと思うが、いかがか。

(異議なし)

■辻教育長

- 異議がないので、まずは、委員の皆様から率直な意見をいただきたいと思う。
- なお、先日、統合準備委員会の方から要望書を受け取った際に伺った意見としては、中学校については「南茅部中学校」が良いという意見が多いとのことである。小学校については、臼尻地域の方は「南茅部小学校」が良いという意見が多く、どのような校名になってもよいという地域がある一方で、「磨光小学校」を推す地域もあるとのことである。

■藤井委員

- 小学校が統合する時点での統合校の児童数の見込はどうなっているのか。

■学校再編・地域連携課長

- 普通学級が155名，特別支援学級が8名，合計で163名を見込んでいる。内訳は，大船小学校から17名，臼尻小学校から32名，磨光小学校から114名となっている。

■小葉松委員

- 子どもたちの数が多いということは，「磨光小学校」という校名を推す人が多いということか。

■辻教育長

- そのとおりである。しかし，磨光小学校区の方でも，地域によって推す校名に違いがあるとのことである。

■須田委員

- 以前の統合のときはどうだったのか。

■藤井委員

- 以前の統合のときは，磨光小学校と統合した木直小学校の児童数が圧倒的に少なかった。今回は，臼尻小学校からの児童数が32名見込まれており，同じように考えるのは難しいだろう。

■辻教育長

- 近年の例でいうと，上湯川小学校と亀尾小学校の統合で上湯川小学校となった事例がある。このときは，旧亀尾小学校の人たちも「上湯川小学校」でいいだろうということになった。それ以外は新しい校名にしようということで，校名を決定した。

■小葉松委員

- もう一つの例外としては「弥生小学校」があるが，伝統があるので残してほし

いという声があった。

■青田委員

- 私は「巴中学校」のときには統合準備委員会側で校名決定に関わっていたが、そのときは、そもそも所在地である「的場中学校」でも良いのではないかという意見もあった。しかし、新しい学校には新しい校名が良いのではないかということになり、幾つかの候補の中から優先順位をつけて要望を提出した。結果として、第2候補の「巴中学校」に決定したため、統合準備委員会の一部の方々からは、なぜ優先順位が反映されないのかという意見もあったが、数年経過すると、「巴中学校」は既に地元に着している。同窓会や生徒からは、良い校名であるという意見を多く聞くようになっている。現実的には、一度校名が決定したら、その校名についてはその先の人たちが歴史を創っていくものなので、歴史や伝統にこだわりすぎるのは良くないのではないか。地元の方の意見も聞いたうえで、教育委員会としての意見を伝えていけば、遺恨を残すことにはならないのではないか。

■小葉松委員

- このときの第1候補は「函館中学校」であった。それが却下されたのは、教育大学附属函館中学校と校名が被るのは問題があるだろうとなったためである。町名が候補に挙げれば、理由づけもシンプルなため、決定しやすい。

■辻教育長

- 「大森浜小学校」については、児童数が多かった金堀小学校側から、新しい学校になるのだから新しい校名のほうが良いだろうという意見が出て、「大森浜小学校」に決定した。
- さらに、今回の統合については、南茅部地区で唯一の小学校になるという点も、これまでの統合とは異なる。

■藤井委員

- 地元の方の意見が複数ある現時点では、今回急いで決めるべきではないのではないか。

■青田委員

- 校名を決定する期限はいつまでなのか。

■学校教育部長

- 2月に条例改正を予定しており，年内には決定したい。

■辻教育長

- 今回結論を急がないことによって，さらに地域の方々から意見を伺うことができる。

■須田委員

- 「弥生小学校」のときは，地域住民の立場としては，言い争いをしたくはなく，教育委員会に決めていただきたいという気持ちであった。

■青田委員

- 地域の意見をしっかりと聞いてもらって，最後は教育委員会が決定する。そうすることで納得してもらえるのではないか。

■辻教育長

- 異例の対応ではあるが，地域の方々からさらに意見を聞くという対応も可能である。

■小葉松委員

- 南茅部地区で唯一の小学校になることから「南茅部」という地名が校名に入っていてほしいと思うが，どうか。

■学校再編・地域連携課長

- 3つの学校の関係者および3つの町会の方から意見を伺ってきた。まず，大船小学校の校区の関係者によると，PTAの中では，地域に残る最後の1校という

ことなので、「南茅部」と考えている人が多いということである。また、新たな学校ができるので、ひらがな表記の「南かやべ」が無難と考える人が多いということである。次に、臼尻小学校の校区の関係者によると、吸収合併ではなく、各学校が一度閉校し、新たな学校ができることになるので、一番不公平感がないひらがな表記の「南かやべ」が良いということである。また、町会の方々、約40名に行ったアンケートの結果は、ほとんどの方々が「南茅部」もしくは「南かやべ」を望んでいるというものであった。その理由としては、地域の名称である

「南茅部」を残す必要があるというものであった。最後に、磨光小学校の校区の関係者によると、「磨光」という名称は、地域の名称ではなく、思いや願いが込められた校名であるので、そのままが良いということである。「磨光」の歴史やこれまでの統合の経過を考えると、小学校名を変更することは考えられず、「磨光」という校名が残るものだと思って統合を了承したと認識している。また、

「磨光」のままであるなら、校章や校歌をそのまま使用できるため、今後の様々な事務作業を考慮すると、「磨光」が良いのではないかということである。

■辻教育長

- 磨光小学校の校区の関係者には、南茅部地区で唯一の小学校になるということもあり、「南茅部」が良いという意見が多いということは伝えているのか。

■教育政策推進室長

- 伝えている。

■藤井委員

- 磨光小学校の関係者の多数が「磨光」が良いという意見なのか。

■学校再編・地域連携課長

- そのとおりである。

■小葉松委員

- 地域外からみて、「磨光」という名称では所在地をすぐに連想できない人が多

いだろう。

■藤井委員

- いずれにしても、もう一度意見を聴く機会を設けるべきではないか。

■辻教育長

- 「南茅部磨光」ではいかがかという意見が事務局から出たこともあるが、それでは長いという反対意見が多かった。どちらの意見も生きるものではあるが。

■青田委員

- 長いと覚えにくく、子どもたちへの負担も大きくなる。

■辻教育長

- 校名は「南茅部小学校」、校歌は旧磨光小学校のものを採用するという意見もあった。「磨光」に込められた思いを大切にしたいという意見に対して、校名以外の手段で応えることも可能である。
- 教育委員会の意見の大勢としては、「南茅部」ということであるが、「南茅部」に決定した場合の懸念として、その後の学校運営に影響を及ぼさないかということがある。

■須田委員

- 「磨光」という名称が残るものだと思って統合を了承したという方もいるので心配である。

■青田委員

- いずれ「南茅部小学校」でよかったというようになっていくと思う。

■辻教育長

- 「磨光」を支持する方々の意見には、「磨光」に決定した場合には、校章や校

歌をそのまま使えるので事務的な作業が減って良いというものがあったが、それは間違いであると思っている。どれほど面倒な作業であっても、みんなでそういったものを考え、作り上げていくというプロセスが、開校後に良い学校になっていくために必要であると考えている。

■学校教育部長

- 今後、もう一度対象地域の全ての町会と意見交換を行うこととしたい。町会に伝える事項はあるか。

■藤井委員

- 磨光地区の方々には、新しい学校ができた「大森浜小学校」や「巴中学校」の統合の経緯を説明していただきたい。

■辻教育長

- 開校後の学校運営が円滑に行われるようにする必要がある。また、人数比の面でも、「大森浜小学校」の統合のときは、児童数が大多数であった金堀小学校の校名を残さず、新しい校名にしたという経緯もある。

■藤井委員

- 中学校の校名も含め、さらに議論を重ねるべきである。

■辻教育長

- それでは、議案第1号については、継続審議とする。さらに事務局には、関係者との意見交換を引き続き行ってもらう。
- 次に、日程第2、議案第2号「民法の一部を改正する法律の施行等に伴う函館市成人祭の対応の決定に関し、議決を求めることについて」を諮る。

■生涯学習部長

- 議案第2号「民法の一部を改正する法律の施行等に伴う函館市成人祭の対応の決定に関し、議決を求めることについて」説明する。令和4年（2022年）4月1日に民法の一

部を改正する法律が施行され、成年年齢が現在の20歳から18歳に引き下げとなることから、法施行後の「函館市成人祭」の対応案について諮るものである。議案の2枚目をご覧いただきたい。まず、法施行後の最初の開催となる令和5年（2023年）1月の成人祭以降における対象年齢についてである。関係者への調査において20歳での成人祭開催が支持されたほか、18歳での成人祭とした場合、進学や就職準備のため式典の参加が難しいと考えられること、成年年齢が引き下げとなる最初の成人祭においては、18歳から20歳までの3学年が対象となるため会場の確保や運営上の困難が想定されることから、成年年齢引き下げ後もこれまでと同様「20歳」を対象として開催しようとするものである。なお、式典の名称等は今後検討していく。

- 次に、成人祭開催日の変更についてである。函館市成人祭はこれまで国民の祝日に関する法律で定められた「成人の日」である1月の第2月曜日に開催していたが、関係者への調査のほか、遠方から帰省する新成人等の参加のしやすさを考慮し、令和4年（2022年）1月に実施する成人祭からは「成人の日」の前日となる日曜日に開催しようとするものである。また、関係者への調査の結果については、参考資料のとおりである。なお、令和3年（2021年）1月の成人祭については、現在新型コロナウイルス感染症対策のため実施方法を検討しているところだが、これまでどおり「成人の日」に開催する予定である。

■辻教育長

- 議案第2号について何かあるか。

■青田委員

- 成人祭の対象は「20歳」で良いだろう。「18歳」では、受験や就職活動を控えているため、配慮が必要である。また、高校3年生を対象に、主権者教育等の成人としての責任に関わる教育をしていく必要がある。

■藤井委員

- 関係者への調査においても「20歳」が支持されているので、これで良いだろう。

■青田委員

- 開催日について、1月10日前後になるということであるが、市外の大学に通う大学生

への配慮をしていただきたい。彼らの冬休みは1週間程度しかなく、成人祭のためだけに帰省するか、参加をあきらめる人も多い。例えば、1月5日前後が良いのではないか。

■小葉松委員

- その点に配慮して、現在は、参加する場所については住民票の有無を問わないという形式になっているのではないか。

■青田委員

- 大半の人は、地元の成人祭に参加したいと考えているだろう。実際の参加者に対して参加しやすい日程の調査を行っていただきたい。誰のための成人祭なのかを考えて、新成人のニーズに合わせるのが大事である。

■須田委員

- 大学によっては、1月4日から講義があるところもあるが、成人祭を1月2日や3日に行うのは難しいだろう。

■小葉松委員

- 成人祭の目的は何かということである。地元の友人と集まりたいなら同窓会を開催すれば良いということになりかねない。成人としての意識を持ってもらうというのが目的である。昔の友人と会いたいという気持ちもわかるが、どこまで配慮するかということである。正月の三が日か、お盆に開催しないと、先ほどの大学生の要望に応えることはできないだろう。

■藤井委員

- 参加者への調査は毎年行っているのか。

■辻教育長

- 今後も継続的に調査し、より望ましい形式というものを絶えず検証していく必要がある。

- 議案第2号について、原案のとおりとすることに何かあるか。

(意見なし)

■辻教育長

- 議案第2号については、原案のとおり決定する。
- 次に、日程第3、議案第3号「函館市社会教育委員の解嘱に関し、議決を求めることについて」および議案第4号「函館市社会教育委員会の委嘱に関し、議決を求めることについて」を一括して諮る。

■生涯学習部長

- 議案第3号および議案第4号の2件について、順次、説明する。まず、議案第3号「函館市教育委員会の解嘱に関し、議決を求めることについて」であるが、本人からの辞任の申し出により、神田克実氏を、本日をもって解職しようとするものである。次に、議案第4号「函館市社会教育委員会の委嘱に関し、議決を求めることについて」であるが、解職される委員の後任として、小野田府氏を、本日から前任者の残任期間である令和4年3月10日まで委嘱しようとするものである。

■辻教育長

- 議案第3号および議案第4号について何かあるか。

(意見なし)

■辻教育長

- 議案第3号および議案第4号については、原案のとおり決定する。
- 次に、日程第4、報告事項「縄文遺跡群の世界文化遺産登録による効果促進施策のあり方の策定について」報告を求める。

■生涯学習部長

- 「縄文遺跡群の世界文化遺産登録による効果促進施策のあり方の策定について」報告する。お手元の資料に基づいて説明する。1ページをお開きいただきたい。策定の趣旨であ

る。本市には、現在、世界文化遺産登録を目指している「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産である史跡垣ノ島遺跡および史跡大船遺跡と、本市の縄文文化の発信拠点である縄文文化交流センターがあることから、これらを活用して、市民や企業・民間団体、行政機関が相互に連携・協働しながら各種の取り組みを進め、世界文化遺産登録による効果を最大化することを目的に、「縄文遺跡群の世界文化遺産登録による効果促進施策のあり方」を策定するものである。次に、将来の姿である。ここでは、市民、観光客、企業・民間団体等の将来の姿として、「郷土に誇りを持つ市民」、「高い満足感を得た観光客」、「活発に活動する企業・民間団体」を実現するため、世界文化遺産登録による効果を最大化することを目指すこととしている。2ページをお開きいただきたい。世界文化遺産登録までの経過とスケジュールである。予定ではあるが、順調にいけば、令和3年夏頃に予定されるユネスコ世界遺産委員会において登録の可否が決定されることとなっている。次に、施策の基本的な方向性である。世界文化遺産登録による効果を最大化するため、「資産の価値の伝達と情報発信」、「来訪者受入体制の整備・強化」、「地域社会との連携による保存・活用の推進」の3つを施策の基本的な方向性として、函館市教育委員会・函館市をはじめとした各行政機関、企業・民間団体、そして市民が相互に連携・協働して各種取り組みを展開していくこととしているものである。また、次のページには、(参考1)として、近年、日本国内において世界遺産に登録された資産の来場者実績を参考に、「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産に登録された場合における本市各施設の来場者数について推計している。次ページをお開きいただきたい。ここでは、(参考2)として、施策の基本的な方向性に基づく展開例として、取り組みの時期や想定される対応機関について記載している。今後のスケジュールであるが、本日、皆様からのご意見をいただいたうえで、成案化し、10月下旬を目途に改めて教育委員会へ報告のうえ、公表したいと考えている。

■辻教育長

- ただいまの報告について何かあるか。

■辻教育長

- 世界文化遺産登録に向けて課題となっていた事項として、市民の皆様の機運を高めることが挙げられていたが、最近は高まりを感じている。具体的には、製菓企業が関連するお菓子を作るなど、自主的な取り組みが増えている。関連商品の種類が増えてきており、とても感謝している。

■青田委員

- 教育委員会以外の部局でも何か取り組みを行っているのか。

■文化財課長

- 観光部では、縄文文化や遺跡群のプロモーションおよび外国人対応のガイド養成などを行っている。経済部では、スイーツの会という団体と連携して縄文に関連したお菓子を作るなどの取り組みを行っている。また、はこだてみらい館においては、民間のNPO法人、渡島総合振興局、本市教育委員会が連携して、「ドキドキ縄文エキスポ」というイベントを行っている。さらに、道南縄文文化推進協議会という商工会議所が中心になっている団体と連携し、各種PR、応援大使の任命などを行っている。そして、南茅部地域では、森と海の会という団体が、縄文時代からある栗の木を植樹し、縄文時代のような森に戻していこうという活動を行っている。南茅部高校の生徒は、クラブ活動などを通して活動を行っている。これ以外にも様々な取り組みを行っている。

■青田委員

- 全市的な取り組みを行っているということで、安心した。

■須田委員

- 登録の可否については、どのような状況なのか。

■文化財課長

- 現在は、イコモスによる現地調査が終わり、青森県にある推進本部を通じて国に問い合わせている状況である。また、調査時の調査員の印象としては、市内だけでなく、縄文遺跡群全体として、一定程度の評価を受けているということは聞いている。順調にいけば、来年の夏頃には世界遺産に登録されるのではないかと期待している。

■須田委員

- 土産品やオリジナルグッズを作製するのに許可は必要なのか。

■文化財課長

- 函館市が所有する写真・資料・ロゴマーク等を使用する場合には、文化財課へ申請していただき、許可を受ける必要がある。それ以外の場合は、許可等は必要ないが、オリジナルグッズ等を作製する団体等には、その情報を文化財課に提供していただくようお願いしている。

■辻教育長

- これで報告事項を終了する。

■終了宣言

- 午前11時25分

議事録署名人 藤井 壽夫

〃 小葉松 洋子

調製者庶務係 中田 壮研